

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年4月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104365
法人名	有限会社 ベストケアライフ
事業所名	グループホーム かわかみ
所在地	鹿児島県鹿児島市川上町1854番地1 (電話) 099-243-7735
自己評価作成日	令和6年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍であっても、社会性を失わず人間らしく、喜び、悲しみ、楽しみが入居者と共に感じ、心を通わせた支援が出来るよう心掛けている。立地を活かした自然の中での沐浴、中庭散歩を日常の中に取り入れ、花見等のイベントは小規模ながらも事業所内で取り組んでいる。電子ツールを活用したオンライン面会をはじめ、静止画・動画をこまめに登録して、ご家族へ送信し、心身の状態を確認し易いよう情報共有に努めている。なお、そうでない家族へは電話での説明を行い、状況に応じて面会・面談の要請をし状況確認をしていただくよう進めている。職員間でも個人情報の取り扱いを理解した上で同様に電子ツールでの情報共有を図り、統一した声掛け、支援の仕方、服薬調整への混乱を避ける等に活かしている。コロナと共生する流れに沿い、外部との接点を徐々に増やしていきながら、アロマセラピー等を取り入れた心と体の両面の癒しにアプローチを始めた。職員へも同様にリフレッシュの一貫で取り入れていく準備を始めた。離職を減らし、新規職員の定着を図って全体のレベルアップに繋がるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、周辺に他法人の障がい者施設が数ヶ所あり、人の出入りが多く賑やかな環境の中にあり、田畑やビニールハウスも近くにある。
- ・コロナ禍や利用者の身体状況の低下等で外出支援が制限されているが、中庭での日光浴や散歩、桜を見ながらのお茶等で季節を感じつつ気分転換を図れるよう取り組んでいる。
- ・家族との玄関での対面面会による交流を支援するとともに、LINEを利用して毎日の生活状況を動画等で家族へ送信したり、毎月かわかみ便りを発行して、家族や知人との馴染みの関係が途切れることがないようにしている。また、看取り期には居室面会を実施し、本人・家族の精神的な安定と交流を支援している。
- ・管理者は、開設当時からで、職員からの信頼も厚く、個人的な相談にも快く応じている。職員も永年勤続者が多く、働きやすい環境づくりができている。職員間の関係も良好で、日常的にグループラインで職員間の情報共有を図り、協力しながら業務に当たっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の安心安全を常に念頭に入れた支援を心掛け、入居者と職員が相互的に助け合って暮らしを続ける意義を理解している。	理念を玄関や事務所に掲示し、職員は各自で確認してケアに当たっており、申し送りや職員会議でケアを振り返っている。パンフレットにも掲載している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へも加入し、地域の行事の受け入れも行っている。また、町内会の回覧板を利用して相互的な情報交換にも努めている。	町内会に加入し、地域の棒踊りの披露に来てもらったり清掃活動に代表が参加する等、地域との交流に努めている。回覧板で地域情報を得ている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	町内会長、地域の民生員等との接触を試み情報共有に努めているが、コロナ禍以降、なかなか会合の場等への出向く機会がない為、今後増やしていく事を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族に年6回のうち半分は参加できるよう準備を整えた。地域住民等の外部者を参加させる再開への理解と協力を仰ぎながら多種多様な意見交換が出来る場へもどしていきたい。	2ヶ月に1回、会議を内部のみで開催し、うち3回は家族の代表者の参加があった。今後、地域包括支援センター及び地域の協力を得て会議を実施し、意見をサービス向上に活かせるよう取り組む計画である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>様々な事案の相談をさせていただいている。事業所内での困難事例などは取り組み方を報告し、助言を貰いながら改善に活かす等実施している。</p>	<p>電話や窓口に出向いて市の担当者に報告・相談を行っており、介護相談員も受け入れている。生活保護担当者とは年1～2回の来訪等で連携を取っている。市のオンライン研修に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>どのような事が身体拘束にあたるのか、様々な考え方や思いがある上で、厚労省の手引きを元に基準を知り事例を交えながら情報共有を重ねて学ぶ機会を設けている。</p>	<p>指針があり、委員会を3ヶ月に1回、研修会は年1～2回実施し、身体拘束への理解を深めている。スピーチロックに気付いたら管理者・リーダーが声をかけ注意している。日中玄関の施錠はしていない。外出希望者は中庭で散歩をしたりゆっくり話を聞いている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束と同様、どのような事が虐待にあたるのか、職員間でアンケート調査をし、夫々が気づきにくい特にスピーチロックがないかを職員会議、研修の機会を作り学ぶようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	まだまだ内容が難しい為、理解には至っていない。また新たな学ぶ機会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時はどうしても緊張や初めての事で深い理解をしていただくのは難しいと思われる為、事例を用いて各事項を丁寧に説明し納得に向けて心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時は勿論、運営推進会議の場を利用して情報を提供し、一方的な意見にならぬよう相互的な意見交換をしながら運営への改善につながるよう図っている。年1にはアンケート調査を用いて日頃の参加が見込めない家族への意向調査も行っている。	利用者の要望には家族の協力を得て対応している。食べ物に関する事が多い。家族からは面会時等に要望を聞き、事前に相談があれば検討して対応できるよう努めている。冠婚葬祭への参加も状況を見て判断している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から運営の方針等の話を行いながら、職員の考えは聞き取りをしている。つまづく業務、時間が押す支援等は問題提起しながら、入居者のアセスメントも合わせて意見交換し合えるよう配慮している。	管理者は日頃から職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めており、業務の中や職員会議で出された提案等を反映できるようにしている。個別相談は管理者及び副ホーム長が受けて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の希望勤務を聞きながら、ユニット毎で勤務調整が出来るようにしているが、人員不足、加齢が負担となっている状況下である。環境整備、求人、職員のレベルアップを図り笑顔の絶えない環境づくりの配備を留意している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修への参加等は就業者数に余裕がない為、頻回は厳しいが外部へ目を向けながら資料など寄せながら法人内外での職員のレベルアップにつなげる様に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会加入を通して、様々な問題点をはじめ、相互的に協力できる共通事項を探しながら情報交換し、入居者の入退去時に協力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>環境の変化で不慣れによる精神的不安が大いにある。聞き取りを何度も繰り返しながらヒントになるような事例、趣味嗜好を職員間で共有し信頼関係構築の取り組みを行っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>上記同様、要望、並びに不安な点の確認をしっかりと行い、事例を挙げながら家族には出来る事出来ない事への理解を促し、専門用語を遣わず分かりやすい言葉での説明をするように心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>身体・精神状態から出来る事出来ない事のすみ分けをする事への理解を頂けるよう、見解の不一致が生じないように気を付けている。特に経済的問題は念頭に配慮しながら行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の思いを、職員側で業務として決めつけることなく、考慮する。協同していく中で早めの状態変化に着目出来るよう関係性を濃密にしていく努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活歴も視野に発言・行動の理由を考え、家族との関係性の機微も判断の要素に加えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	発言、仕草、生活リズムを把握したうえで、一方的に決めつける物言いをしない。「待つ」事を大事にし本人の考えを話していただけるような雰囲気や考えの代弁者としてなりえるよう配慮する。	家族・友人・知人等の玄関での対応、電話・はがき等の取次ぎも行っている。LINE・メールでの動画や写真の送付、毎月の便りでの近況報告を行ない、家族との繋がりが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	異性、同性、お互いの相性がある。不定期ではあるが席替え、テーブルの向き等環境整備、人的関係性は確認している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後には、その後を家族に便りを出したり、電子ツールで声掛けする等配慮している。両機関などに様子を尋ね再相談を受けるなども配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の生活リズムがあるが同じ棟の入居者の動向により同調したら強要したり人的環境で変化が生じやすい。タイミングを見ながら配置の考慮をしている。	日常会話を通してや表情を見ながら、本人の希望等を把握できるように努めている。困難な場合は、家族の情報を参考に本人の表情等から推測し、得られた情報は職員間で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時の家族・様々なサービス機関からのある程度の情報を活かしながら支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	色々な伝達ツールを使用し、職員間で入居者毎の日中、夜間の様子の情報共有をなるべくタイムリーに出来るよう工夫している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の課題においての実情（身体・精神）からのズレの修正をする為に職員間でのミーティング、アセスメントで見直す等行っている。	電話や面会時に家族の希望を聞き、ミーティングで出された職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月に1回、見直しを6ヶ月毎及び状況変化時に実施し、現状に合った介護計画にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人ごとの記録をとり、気づき、状況の詳細を記録するようにしている。また、業務日誌内にも個別案件で且つ特記事項を記載し職員間で情報が錯綜しない工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場しのぎの後手に回る支援ではなく、予測をしながら行動把握をし、ニーズに合わせる等情報収集をし他機関との意見交換を頻回にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会を活かしながら、徘徊癖のある入居者が施設外に出た場合の協力体制（地域住民への捜索依頼、警察等公的機関への相談）を都度情報提供しながら意見を求めるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症だけでなく持病を含めた状態変化が目まぐるしい。雇われかかりつけ医、家族への報告を並行して行い状態に応じた適切な医療を受ける事が出来るよう家族の理解を深め話し合いを重ねるようにしている。	契約時に希望を確認し、入所前からのかかりつけ医となっている。月2回の訪問診療や往診の利用が多く、他科受診は家族対応を基本にしている。緊急時はかかりつけ医の指示を受けて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本の身体状態から個々に注目するポイントを押さえ、職員間での気づきを集約し訪問時に合わせて都度確認、指示を得て適切な状態の保持が出来るよう連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療者、栄養士、相談員等それぞれの視点を確認し、事業所内での注意点、指導を仰ぐようにしている。迅速な判断を得るために状態悪化における報告は職員間で常々着目している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に概ねの流れとして重度化、終末期の方針を説明している。入居当初は家族もなかなか想像が出来ない為、生活がスタート以降状態報告をする度に早い段階からの説明を繰り返すよう以降確認の変化がないかの聞き取りをするようにしている。	契約時に重度化等の場合の対応について指針に添って説明している。入居後はLINE等で状況報告を重ね、家族の意向を確認している。病状変化時に医師から家族に病状と看取り介護についても説明し、看取り介護の同意書を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間でも力量の差がある為、初期対応訓練をよりこまめに行っていき、適切な対応が出来るよう訓練を重ねたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を行っている。特に、火災、地震発生時の避難誘導の練習を積むようにしている。避難経路の確保、居室内環境整備、定期的な物品廃棄、漏電防止の点検も清掃時に留意するよう取り組んでいく。</p>	<p>年2回地震・火災の避難訓練を昼夜想定で実施し、1回は消防署の立ち合いを受けている。非常用の備蓄は、水・米・缶詰・乾物・菓子等の食料及びカセットコンロを準備しており、今後、補充等を見直す予定である。定期的な安全点検も実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の表情を見ながら場面ごとに声掛けの頻度を考慮し、日々の様子から反応を想定して対応している。ケアの中に相手を尊重出来ているか等は振り返りシートを今後活用していく。	年1回研修会を実施し、利用者に応じた声かけや対応に配慮している。入室時やケア前の声かけ、希望に応じた呼び名やさん付けでの呼びかけ、職員間の情報交換は小声で行う等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な決まり事（時間）のある程度の制約がある中で、意思決定をしていただき、行動・視線・表情を把握しながら行うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の決まりはあるも、協調いただきたい面を説明し、判断を待ってその先に繋がるよう声掛け誘導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自身では気分が乗らない等言われる場合もあるが入浴・更衣時に季節柄、気温等を考慮した選択が出来るよう声掛け誘導し、顔移り等を見ながら反応を見るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好の把握は基本として口腔内状態（嚥下の適切）、認知症の進行を考慮。色合い、食事形態等を工夫し自分で間食出来る達成感を得られるよう留意している。	職員が献立を作成し、個々人に応じて食形態を工夫し調理している。季節の行事食や外注の弁当を楽しみ、誕生日食はリクエストを聞いて好物を提供しケーキを準備している。利用者は下膳や台拭き等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に身体状況、持病によって制約はあるが食事摂取量と水分量の確認をしながらチェック表活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科検診を受けながら口腔内の状態確認をし、口腔ケアのアプローチをミーティングで共有できるようにし、なるべく自身で磨きやゆすぎ等が出来るよう支援を行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	服薬指導を貰いながらも、なるべく腸動運動が改善するよう、声掛けで促しトイレでの排泄を目標とし、失敗で不穏になる切欠をなくす為にも個々のパターンを把握するよう努めている。	日中は、本人の訴えや定時誘導でトイレでの排泄を基本に支援している。排泄用品は個々に応じたものを使用している。オムツからリハビリパンツへの改善例があり、夜のみオムツを使用する場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールの困難者はまずは水分・食事量・腸の運動の改善を念頭に、ヨーグルト等摂取も併せて行っている。心身状況から適量の運動（動作）を支援し、医療側とも都度相談を繰り返している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の希望も聞き取りつつ持病との兼ね合いを見ながら入浴の回数、時間帯の配慮を行う。入浴困難者は足浴、手浴をアロマオイル使用等で工夫しながら清拭を盛り込む。	週3回午前中を基本に入浴を支援し、回数や時間は柔軟に対応している。身体状況等で清拭や足浴・シャワー浴も実施し、同性介助にも対応している。拒否の場合は、声掛けや職員・時間を変更する等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣が異なる為、夜は寝る、と言う固定概念は外す。薬依存の方もおられる事から医療側との調整により心身に大きなストレスを抱えない量とタイミングの調節を都度検討出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状における把握は各スタッフが出来るよう様々なツールでの情報共有を図っている。内服の種別等は根拠、服薬上の注意点を周知させ、見守るポイントを周知できるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の認知症の症状により出来る量や種類が様々である。日によって役割を全う出来る時とそうでない時も流動的である為、表情や行動を見ながら声掛けし役割分担が出来るよう配慮する。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍以降、娯楽での外出支援はしていない。家族との調整により、病院受診、散歩等は徐々に支援の幅を戻している。	中庭で散歩や外気浴を行ったり、花の咲く時期には、庭での花見を楽しんでいる。医療機関受診時にドライブをしたり、家族と外出する利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現況、金銭管理を気にされる方はおられない為、家族に託しており、何かしらの買い出し要望がある際は代理買い物をする等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	季節のハガキ等を機能に合わせて支援している。電話においては家族要望も踏まえてLINE電話等で顔が分かるような会話を勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の食事時間の変化がありカーテン開閉はこちらが促す事で役を担っている方がして下さったり、ソファ、中庭等本人様の思いに沿って同行して寛いでいただくよう見守り、寒暖差が酷い時以外は本人の希望優先にして差し上げるようにしている。	ホールは加湿器やエアコンで適切な室内環境である。窓を開けて換気を実施、光はカーテンで調節している。季節ごとの手作り作品をホールの壁に掲示している。車いすの動線に配慮してテーブルやソファを配置している。ホールからスロープで中庭に出て自由に散歩や日光浴ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各人がお気に入りの場所を認識しており、ソファでの座る位置、読書をする場所、スタッフのテーブルを認識しておられる方においてはその横に見えて寒暖する等、本人様に判断を委ねている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、衣類などはご持参いただき、少しでも環境の変化に戸惑うことが減るように家族にも協力を依頼している。	居室にはベッド・タンス・クローゼット・洗面台を設置し、一部にはトイレもある。寝具やテレビ・椅子・小タンスを持ち込み、好みの写真やぬいぐるみを身の回りに置いて安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定、見当識の機能低下により居室を間違える等多々ある方であっても行動する前からスピーチロックをするような事が無いようにする。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない